

国際交流・海外調査報告

WMOの統合洪水管理ヘルプデスクへの参画について

仲村 学

河川政策グループ
上席主任研究員



湧川勝己

河川政策グループ
チームリーダー



1. はじめに

JICEは、国際技術協力の一環として、世界気象機関(World Meteorological Organization: WMO)と連携・協力しながら、洪水管理に関わる科学的知識や技術の調査・研究を行っています。この活動の一環として、WMOが運営する洪水管理の政策立案、関係者の能力開発等を支援するための「統合洪水管理ヘルプデスク」に参画することとしたので、その内容を紹介します。

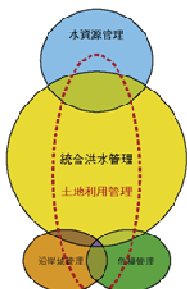
2. WMOと統合洪水管理について

統合洪水管理(Integrated Flood Management: 以下、「IFM」という。)¹⁾は、国連の専門機関である世界気象機関(WMO)が提唱している新しい洪水管理の概念です。

IFMは、河川流域全体の資源の効率的利用を促進し、氾濫原における生産性を維持または増大させるとともに、洪水による人命と財産の損失を最小限にすることを目指して、河川流域での土地と水資源の開発を統合する新たな洪水管理です。IFMの特徴は、戦略や対策(構造物対策または非構造物対策、短期的対策または長期的対策)を適切に組合せることであり、参加型で分野横断的な透明性の高い意思決定手法を採用することにあります。

JICEは、このIFMのコンセプトと実施のための運用ツールの開発や、洪水管理に関する知識と技術の普及に協力しています。IFMのコンセプト等の詳細については、JICEレポート第15号にも紹介しています。

(<http://www.jice.or.jp/report/index.html>)



3. IFMヘルプデスク

IFMヘルプデスク(HelpDesk for Integrated Flood Management)は、IFMのコンセプトと洪水管理の手法を広く世界に紹介するとともにIFM手法の採用を検討する国々の支援を目的に、WMOによって2009年に設立されたインターネットツールです。

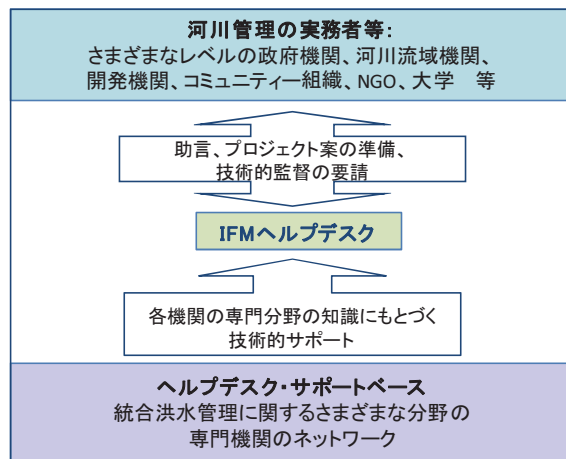
IFMは、分野横断的な手法を採るとともに、流域における様々な関係者の参加を求めていることが特徴です。このため、IFMヘルプデスクの役割は、洪水管理の実務者等と様々な分野の技術専門機関とをつなぐことにあります(図-2)。

また、IFMヘルプデスクの活動を技術的にサポートするため、IFMに関する様々な技術専門機関で構成されるネットワーク(サポートベースという。)を有しています。

JICEは、サポートベースの一員(サポートベース・パートナー)として技術協力を行っています。

なお、我が国からは、国土交通省、水災害・リスクマネジメント国際センター(ICCHARM)、及び水資源機構が、IFMヘルプデスクのサポートベース・パートナーとなっています。

(<http://www.apfm.info/helpdesk/partners.htm>)



IFMヘルプデスクは、IFM手法に関する知識・情報を利用しやすい形で提示し、自分自身で学習する部門の「Help Yourself（セルフモード）」と、支援を必要としている洪水管理の実務者等からの要請に応じて、技術専門機関（サポートベース・パートナー）との橋渡しを行う「Get Help（双方向モード）」の2つの部門から構成されています²⁾（図-3）。

「Help Yourself（セルフモード）」では、洪水管理の実務者向けに、統合洪水に関するガイダンスとしてIFMツールが提供されています。これらのツールの一部は、JICEの協力により作成されています。



図-3 IFMヘルプデスクの構成
(<http://www.apfm.info/helpdesk.htm>)

4. IFMヘルプデスクにおける JICEの技術協力分野

WMOが提唱するIFMと同様に、流域と一体となった治水対策として、我が国の総合治水対策があります。総合治水対策は諸外国においても評価が高く、グッドプラクティスとして紹介されています。

JICEは、「流域と一体となった総合治水対策に関するプログラム評価（国土交通省）」に関わる業務や、「解説・特定都市河川浸水被害対策法施行に関するガイドライン（JICE編著）」の作成等、総合治水対策に関わる調査研究を多数行っています。

JICEが有する技術力と、これまでのWMOとの協力関

係の実績が評価された結果、WMOからの要請を受け、2009年12月から、JICEはIFMヘルプデスクのサポートベース・パートナーとして参画しています。

IFMヘルプデスクを通じて、JICEが行う技術協力は以下に示す分野であり、WMOからの要請に応じて、支援を必要とする国又は地域に人材を派遣することとしています。

- 統合洪水管理に関する最新知識 (State of the art knowledge on IFM)
- 洪水危険評価 (Flood hazard assessment)
- 洪水および気候変化に対する適応策 (Floods and Climate change adaptation)

5. おわりに

WMOでは、IFMの新たな課題として「急激な都市化」と「気候変化への対応」を位置づけました³⁾。

これらの課題に対して、日本の河川管理技術が期待されているところであります。また、JICEがこれまで蓄積してきた総合治水対策に関する知見や、気候変動適応策に関する最新の調査研究の成果を十分活用できると考えられます。

WMOとの技術協力においては、これらの知見や成果をもとに、IFMツールの充実、IFMヘルプデスクを通じた技術支援、IFMに関する情報の発信をより一層進めていくことが必要と考えます。また、これらの技術協力を進めていくことは、我が国の国際貢献に寄与するものであると考えます。

なお、IFMにご興味のある方は下記のサイトを是非ご覧ください。

(URL : <http://jice.or.jp/international/index.html>)

参考文献

- 1) 洪水管理連携プログラム Associated Programme on Flood Managementのホームページ (特に断りのない限り統合洪水管理に関する情報はこれによる), <http://www.apfm.info/>
- 2) 村瀬勝彦, 洪水管理連携プログラムとケニアの洪水管理プロジェクト, 雑誌「河川」2009-1月号
- 3) World Meteorological Organization, INTEGRATED FLOOD MANAGEMENT CONCEPT PAPER, 2009, <http://www.apfm.info/ifm.htm>